



ほっかいどう
生涯学習
Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

●平成29年度「第1回理事会・定時評議員会開催」	2	●私の生涯学習	5
●これからの生涯学習を展望して	3	●平成29年度ほっかいどう学かでの講座	5
●わがまちの生涯学習	4	●随想38	6

平成29年度第1回理事会・定時評議員会開催

5月12日理事会、5月30日定時評議員会がそれぞれ開催され、「平成28年度事業報告」、「平成28年度決算報告、監査報告」及び「理事の辞任に伴う補充選任（案）」「評議員の任期満了に伴う選任(案)」が審議され承認されました。

新旧評議員紹介

【退任】

評議員 笹 森 和 宏 (北海道社会教育主事会協議会)
評議員 高 倉 嗣 昌 (公益財団法人ふきのとう文庫理事長)
評議員 山 本 富 造 (北海道高等学校PTA連合会会長)

【新任】

評議員 東 信 也 (北海道社会教育主事会協議会)
評議員 野 田 龍 一 (公益財団法人ふきのとう文庫理事)
評議員 新井田 寛 (北海道高等学校PTA連合会会長)

新旧役員紹介

【退任】

理 事 及 川 秀 一 郎 (北海道公民館協会事務局長)
理 事 小 川 浩 志 (北海道新聞社事業局事業センター長)

【新任】

理 事 内 田 和 浩 (北海道公民館協会理事)
理 事 逢 見 敬 仁 (北海道新聞社事業局事業センター長)

正味財産増減計算書内訳表

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単価：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	67,648	0	67,648	0	135,296
受取会費	701,500	0	701,500	0	1,403,000
事業収益	756,252	0	0	0	756,252
受託事業収益	29,463,840	1,030,000	4,527,000	0	35,020,840
受取補助金等	5,352,000	0	0	0	5,352,000
受取寄付金	100,000	0	100,000	0	200,000
(一般社団法人札幌ゴルフ倶楽部)					
雑収益	1,581	0	0	0	1,581
経常収益計	36,442,821	1,030,000	5,396,148	0	42,868,969
(2) 経常費用					
事業費	36,884,092	156,285	0	0	37,040,377
給料手当	18,748,316	23,000	0	0	18,771,316
臨時雇賃金	230,050	0	0	0	230,050
福利厚生費	2,990,138	3,400	0	0	2,993,538
旅費交通費	584,138	0	0	0	584,138
通信運搬費	1,387,622	16,185	0	0	1,403,807
消耗品費	2,803,780	9,682	0	0	2,813,462
印刷製本費	3,419,464	0	0	0	3,419,464
賃借料	1,012,034	41,000	0	0	1,053,034
諸謝金	612,500	0	0	0	612,500
租税公課	1,149,700	38,000	0	0	1,187,700
支払負担金	3,500,000	0	0	0	3,500,000
委託費	369,576	20,412	0	0	389,988
支払利息	76,774	4,606	0	0	81,380
管理費	0	0	5,367,404	0	5,367,404
給料手当	0	0	4,181,164	0	4,181,164
福利厚生費	0	0	616,525	0	616,525
会議費	0	0	1,440	0	1,440
旅費交通費	0	0	119,390	0	119,390
通信運搬費	0	0	31,988	0	31,988
消耗品費	0	0	34,217	0	34,217
賃借料	0	0	70,968	0	70,968
租税公課	0	0	247,900	0	247,900
支払負担金	0	0	42,500	0	42,500
委託費	0	0	17,388	0	17,388
支払利息	0	0	3,924	0	3,924
経常費用計	36,884,092	156,285	5,367,404	0	42,407,781
当期経常増減額	△441,271	873,715	28,744	0	461,188
2. 経常外増減の部					
他会計振替額	441,271	△873,715	432,444	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	461,188	0	461,188
一般正味財産期首残高	0	0	3,422,357	0	3,422,357
一般正味財産期末残高	0	0	3,883,545	0	3,883,545
II 指定正味財産増減の部					
指定正味財産期首残高	0	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	20,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	0	0	23,883,545	0	23,883,545

これからの生涯学習を展望して

札幌国際大学スポーツ人間学部

准教授 新井 貢

人は誰もが少なからず夢や希望を持って生活している（いた?）。その中には、憧れとする人、尊敬する人がいて、その人のようになりたいと、内心では大きな目標として学習することもある。しかし、現実にはそう簡単に追い付き、追い越すことは出来ない。何故なら、現時点で比べてしまうからであり、その人の年齢や立場になった時と比べないからである。目標に向かって学習している人は、常に成長を続けるので、現時点で比べるのではなく、長い目で見通すことも楽しく学習する要因の一つである。逆に、自分が目標とされていることも少なくない、その場合も同じであって、現時点で他の人を評価してしまうのではなく、その年齢や立場になった時に、自分より大きな人間になっていることを期待し、接したいものである。

私自身、現在は大学で学生を指導する立場で仕事をしているが、これまでに様々な立場の方々とは出会い、多くのことを学ばせていただいた。恩師である先生を始め、同じ指導者として目標としてきた先輩、ともに働いた後輩を含めた同僚、そして忘れてはいけないのは多くの教え子とその保護者たちと接する場面での「気づき」である。また、職場を離れた場面でも、地域の方々との出会いが、私自身を大きく成長させてくれた。

私はスポーツを通して人間的に成長してきた一人である。スポーツ（とりわけ競技スポーツ）には勝敗にこだわるという魅力がある。ただし、ルールと時間という制約の中で勝敗が決まるだけであり、たとえ負けたとしても、同じ目標に向かって努力してきた仲間となれるのも魅力の一つである。しかし、人の生涯はなかなかスポーツのようにいかないものである。なぜなら、決まったルールや時間などの制約がなく、一人ひとりの価値観で、結果が大きく変わるからである。その中で、どんな逆境にあっても、前向きに日々輝いて生きている方々に共通して言えることは、人を大切にしているという点である。人生の先輩に対してはもちろんのこと、同僚や後輩、偶然に会った人々に対しても、その出会いを大切に接している。

今回、こうして原稿を書くにあたって、過去の会報に目を通させていただき、「新しい自分との出会いや発見がきっとある」というキャッチコピーが、私の生き方、いや多くの方々の生活そのものであると共感した。前述したように、私自身いろいろな方々と出会い、多くのことを学ぶだけではなく、自分自身の「気づき」があった。「新たな自分の発見」は、「新たな出会い」から生まれる。それは人だけではなく、初めて行った場所や初めての体験からの「気づき」もある。また、いつも通っている場所であっても、自分自身の心理的な変化からの「気づき」もある。

人は誰もが「知らなかったことを知る」「出来なかったことが出来る」喜びを、少なからず感じて成長している（いた?）。このことは、生涯を通して言えることである。日々輝いている人は、すべての出会いを大切に、新たな自分の「気づき」を求めて行動している。実は、このことが生涯学習であり、誰もが簡単にできるはずである。しかし、高齢になり自分自身の体が思うように動かなくなると、新たな自分を発見する機会を自ら放棄し、勝手なルールを決め、時間を止めてしまうことも少なくない。

すべての人々には、生涯にわたって素敵な出会いがあり、新しい自分を発見できるチャンスが続いている。どんなに忙しくても、思うように体が動かなくても、あなたの近くにはいろいろな現象が起きている。そのすべてを受け入れる気持ちこそが、新たな自分を発見し、楽しい時間となるであろう。

私は、近い将来、誰もが気軽に立ち寄り、楽しく会話をしながら飲食することで、「新たな自分との出会いや発見がきっとある」コミュニティスペースという名の、持ち込み居酒屋を開業するという夢を持っている。

わがまちの生涯学習

中標津町教育委員会

教育長 小谷木

透

道東の空の玄関のひとつ「中標津空港」を有する中標津町は、東経145度、根室管内の内陸に位置する人口約24,000人の町です。

明治の末から始まった原野の開拓は、先人たちのたゆまぬ努力により、度重なる冷害凶作などの困難をのり越え、広大な酪農地帯をつくりあげました。さらに鉄道の分岐点となった市街地では、商工業の発展により、周辺から人が集まる中核的な都市へと進展してきました。

周辺の町と共に形成された独特な酪農景観は、「根釧台地の格子状防風林」として北海道遺産に選定されています。

□生涯学習の基本理念と計画

本町では、中標津町教育大綱の『人が輝き歴史と文化を育むまちづくり』という基本理念を基に、次代を担う子どもたちが希望を持って未来を迎えられるよう、地域住民との協働による地域の総合力を結集した教育を進めています。生涯学習にあたっては、平成10年度に生涯学習推進基本計画を策定後、現在は町の長期計画である第6期中標津町総合発展計画との整合性を図りながら、平成23年度に策定した生涯学習推進計画、中標津町スポーツ振興基本計画、中標津町子どもの読書活動推進計画（いずれも平成23～32年度。平成27年度に見直しを実施）に基づき様々な施策を展開しています。

□充実した社会教育事業

本町における社会教育事業は、教育委員会の直営（社会教育係、生涯学習指導班、郷土館）事業の他、総合文化会館、図書館、交流センター、スポーツ施設については指定管理者によって様々な事業が展開されています。特徴的な事業としては、教育委員会の直営事業である「家族で行こうクテクの滝」と「林業体験教室」が挙げられます。これらの事業については、町民グループや団体に連携・協力いただきながら実施するもので、それにより事業内容の充実や子どもたちの安全対策をしっかりと図ることができるものとなっています。



□スポーツ活動の推進

平成28年10月にオープンした総合体育館の設備を活かすとともに、一昨年協定を締結した日本体育大学と連携し、「体育・スポーツの振興」と「町民の健康増進」のため有効活用できるよう取り組む他、町を代表するイベントのひとつである「なかしべつ330°開陽台マラソン」の支援や、合宿のために来町するスポーツ団体へ支援品の支給等を行っています。

□地域とともにある学校教育

現在本町内には、4校の小学校、2校の中学校、1校の義務教育学校があります。平成29年度より順次コミュニティスクール（学校運営協議会制度）を町内全ての小・中学校、義務教育学校に導入し、学校、保護者、地域が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、協働の中で、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」の取り組みを推進しています。

また、計根別地区にある町立の農業高等学校では「計根別食育学校」という実践が行われています。高校生が先生役となり、同じ地区内にある幼稚園、義務教育学校の子どもたちと一緒に牛の世話を体験したり、野菜の栽培・収穫・調理までを行い、農業を通じて食と命の大切さを学んでいます。

その他にも、教育委員会と地域で活動している団体が、町内の民間企業等と学校のパイプ役になることにより、中学校と高等学校における職業体験事業が円滑且つ充実した内容になるよう支援を行なっています。

次代を担う子どもたちが、たくましく心豊かに健康で充実した学校生活を送るとともに、町民一人ひとりが生きがいを持って学び、学習成果を生かせる生涯学習社会を築くため、今後とも町民と共に歩む教育行政に最善の努力をしていきたいと考えています。

私の生涯学習

「生涯学習講座」で学び続けて

道民カレッジ生

音更町 内田 美佐子

「道民カレッジ」が始まったのは平成13年ということですが、私はその手帳を持ったのはその4年後のことでした。

講座は3年ほど前から受けていましたが、ぼんやりの私はそういう手帳があることを知らずにいたのです。ある時、受付の順を待っていると、「手帳を忘れたのですが…」と言う声が聞こえ、初めて「道民カレッジ手帳」があることを知りました。今、何冊もの「道民カレッジ手帳」を見て、受講した内容を振り返っていますが、手帳は単位を取るだけでなく、学ぶ励みになり、教室で出会う人たちとの情報交換も楽しい時間となっています。まさに、会報のタイトルにある「新しい自分との出会いや発見がきっとある」日々を実感しています。

「フレンズ十勝」の講座では、受講者も得意分野の講師を務めています。私は「短歌」や、「音更町の歴史」を発表しました。「わが町の歴史を知ることは、わが町を愛すること」の理念のもとに調べたことが、他町村や「かでる」でも発表の機会を得たことは、望外の喜びでした。

そうして、同じ講座に集う受講生の生きる姿勢を学び、情報を交換できる幸せも沢山あります。名前も年齢も知らなくても、親しく挨拶が出来る人がいることは、日々の暮らしを豊かに、優しくしてくれます。教室ばかりでなく、町中で出会った時にも「お元気ですか」「またお会いしましょう」と言える人が、年々増えていくことも喜びのこの頃です。

また動員カレッジと連携している音更町の高齢者大学で学んだ人たちと、九年前に「老人健康保健施設」を訪問するボランティアグループを立ち上げ、週に一度の活動を続けていますが、研修会をしながら、和気藹藹の時間を重ねています。

私は昨年、思いがけず「生涯学習実践者奨励賞」を頂きましたが、まなびの原点は「好奇心」です。色々なことを学び、色々な人と仲よくしていきたい。それが生きて行くことの原動力になっていますが、そうした学びの場を作って頂いていることに感謝で一杯です。

今は高齢社会が進む一方ですが、この頃の高齢者はとても元気です。みんないくつもの趣味を持ち、学びの場を持っています。「一億総活躍社会」とはいきませんが友人たちと楽しみながら学んでいます。これからも「生涯学習」を通して大勢の人と一緒に、学ぶ時間を大切にしていきたいと思っています。

平成29年度ほっかいどう学かでる講座

どなたでも参加できる講座です。是非お気軽におこしてください。

場 所：札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センター（かでる2・7ビル4階大会議室）

受講料：1講座500円（賛助会員は割引券利用で100円引き）

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

回	期 日	タイトル・講師名	分野
5	7月7日（金）	「楽しく健康に暮らす方法～きっかけづくりは楽しむことから～」 (健康運動指導士 本多 理紗 氏)	健康
6	8月18日（金）	「長期予報はなぜ当たらないか？～地球温暖化って本当か～」 (北海道大学名誉教授 山崎 孝治 氏)	環境
7	9月27日（水）	「札幌ラーメン誕生の秘話と未来への飛躍」 (西山製麺株式会社 代表取締役社長 西山 隆司 氏)	生活
8	10月3日（火）	「喜びの地球を産んでいこう！！～命を見つめるありがとう農法～」 (一般社団法人大地が教えてくれたこと 代表理事 村上 さゆみ 氏)	農業
9	11月7日（火）	「NHKと民放で17年！～アナウンサーの仕事と番組の裏話～」 (フリーアナウンサー 藤原 佐智 氏)	文化
10	12月5日（火）	「現代の魚食と日本社会」 (北海学園大学経済学部教授 濱田 武士 氏)	漁業

随想38

民衆の宗教感覚

前回、宗教心のことについて少し触れたが、ここに面白い文章が目に入ったので紹介しておきたい。それは宗教学の山折哲雄氏と司馬遼太郎氏の対話であるが、民衆の宗教感覚としてなるほどと思うものである。ここで言う民衆とは、寺社に直接たずさわってない一般大衆のことである。

明治から大正時代、浄土真宗の農民（播州＝兵庫県の門徒）の暮らしの中では、蠅を叩いて殺してはいけないと言われていたという。ただし、蠅取り紙はいいという。これは向こうからやってくるのだから（司馬氏談）。このような類例は他にもあろうと思われるが、実に面白い民衆の宗教感覚である。殺生をしてはいけないという何となくの感覚と現実問題の殺生の感覚差が実際に存在するのである。日本人の食事の前の「いただきます」の挨拶も、一面では動植物に対する人間の殺生に対する謝罪の表われとされている。

仏教の世界では、原則として不殺生を含む戒律に基づいて修行が行われるらしいが、民衆の感覚としてはそこまで厳しいものではなかったであろう。ある時は神様に神頼みし、お葬式などでは仏様にすべてを託すという日本人の宗教感覚のゆるさが日本文化の一つの表われともいえるのであ

ろうか。このような無神論的な感覚とも少し違う多神教ともいえる感覚は風土とも関連すると言われている。インドから東南アジアそして日本を含む東アジア圏が多神教世界であるという説である。日本の多神教は靈魂信仰（アニミズム）を基盤とするという話もある。そこで思い出されるのはアイヌの人たちの宗教感覚である。仏教や神道とは基本的には無縁で、アニミズムとトーテミズムそしてシャーマニズムを混在している感覚で、いわば多神教の一種とも言えるものである。それこそ縄文時代からの伝統を受け継いでいる日本の基層文化の一つと考えてもよいのであろうか。

それはさておき、現代社会における宗教的問題研究などを行っている先の山折哲雄氏は以下のようにも表現している。宗教というのは、50年や100年という単位ではなく、1000年、2000年単位で考えないと、真の奥行き・深さ・恐ろしさみたいなものは分からないだろうと。だからこそ苦しい時の神頼みという行為がごくふつうに行われているのもあろうと思われる。

最近、司馬遼太郎氏の『宗教と日本人』（司馬遼太郎対話選集8、文芸春秋社、2006年）を再読して感じたことを綴ってみた次第である。

（公財）北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新入会員紹介（敬称略）

次の方々新たに賛助会員になりました。今後ともよろしく願います。

長田 和夫	江頭 モト子	西尾 仁宏
高山 英輝	落合 俊忠	田村 信子
横田 和明	井上 三男	南川 志保子
笠木 眞喜子	西 英司	山田 邦子
小野 和義		

※賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）を募集しております。

詳しくは事務局までご連絡ください。

●表紙写真提供 三原和廣氏

編集後記

さわやかな初夏を迎え、木々もいっそう緑濃い季節となりました。

会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今号には、当協会の第1回理事会・定時評議員会の情報や、生涯学習に関わる方々のご紹介をさせていただいております。

当協会では今後も「ほっかいどう学かでの講座」や「生きがいづくり生涯学習促進事業」、秋には「大学インターネット講座」など、様々な学びの機会をご提供できるよう、職員一同努めてまいりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ご寄付いただき
ありがとうございます

ほっかいどう学（自然環境）の会様から、ご寄付（81,355円）をいただきました。心から感謝申し上げます。